

～CIR活用の巻～

142年ぶりに富岡製糸場で働くフランス人 ～運命の白い糸で結ばれて～

群馬県富岡市世界遺産まちづくり部富岡製糸場課 稲塚 広美

富岡市では、今回初めて国際交流員（CIR）を任用しました。群馬県内の市町村では、前橋市国際交流協会のイタリア人CIRに次いで2人目の任用です。

国際担当部署ではなく、富岡製糸場に勤務することとなったフランス人CIRダミアン・ロブションについてご紹介します。

富岡製糸場設立の背景とフランスとの関わり

富岡製糸場は今から142年前の1872年に建設された、日本で最初の官営模範製糸場です。1859年、日本が西洋諸国と貿易を始めた時の輸出品の要であったのは蚕が作る繭から取った生糸でした。当時の生糸の生産は手作業であったため大量生産ができず、また質の悪いものも出回るようになり海外から改善を求める声が高まりました。こうした中、時代は明治を迎え殖産興業政策を掲げた政府が急務としたのは、生糸の品質改良と大量生産を可能とするヨーロッパの器械製糸技術の導入と推進でした。

富岡製糸場の建設にあたり、政府は生糸に精通しているフランス人のポール・ブリュナを指導者として雇い入れ、建物の設計をした製図工をはじめ、器械



ブリュナー行

工、生糸検査人、女性教師、医師等のフランス人がお雇い外国人として入場しました。

現在の富岡製糸場

官営により操業を開始した富岡製糸場は、1893年に民営化され三井家、原合名会社、片倉工業株式会社へと経営が移り、1987年に幕を閉じるまでの115年間、一貫して製糸業を続けました。2005年に国指

定の史跡となり、建造物一切が寄贈され富岡市の管理となり、2006年には主要な建造物が国の重要文化財となりました。

現在、富岡製糸場は、県内の絹産業関連施設である田島弥平旧宅、高山社跡、荒船風穴とともに「富岡製糸場と絹産業遺産群」として世界遺産登録を目指しており、今年6月にカタール・ドーハにて開催される世界遺産委員会で審議されることになっています。

CIRの役割

こうした流れの中で富岡製糸場の来場者は年々増加し、2013年度は30万人以上に膨れ上がりました。今までこれといった観光スポットがなかった富岡市ですが、世界遺産に登録されれば国内外から注目され、外国からの来場者の増加も期待されます。

また、富岡製糸場は前述したように、創業するにあたりフランス人が深く関わっていたことからフランス語の文献調査は必須です。翻訳、通訳、海外調査、日仏間のレターや電話対応など、フランス人CIRを任用するチャンスは今しかありません！

CIRを任用することが決まってから配属されるまでの間、フランス語の文献を溜めておいたため、ボリュームのある翻訳作業が最初の彼の業務でした。同時に富岡製糸場の歴史や価値などの勉強を重ね、任用して3か月後、日仏工業技術会のフランス人来場者への解説が最初のガイドデビューとなりました。

メディアによる情報発信

富岡市ではCIRを任用するのは初めてということ、県内自治体でもCIR任用例がほとんどないこと、世界遺産登録に向けて富岡製糸場がメディアで取り上げられることが多いことなど、複数の要因が絶好のタイミングで重なったこともあり、ダミアンへの注目度も高まりました。

任用してまだ半年ですが、新聞各社の数々の取材、特集記事、ラジオ・テレビ出演、対談、講演など、幅広いニーズに対応しています。たとえば共演者が報道キャスターであろう



群馬テレビ放送「リーダーズeye」での一幕

と、お笑い芸人であろうと、相手に合わせて臨機応変に全てそつなくこなしています。ダミアンが取り上げられることにより、当然富岡製糸場のPRにつながりますし、JETプログラムを知っていただく良いきっかけにもなっています。

また、海外情報発信ツールとしてのFacebookの強みを生かし、富岡製糸場Facebookのフランス語版も始めました。

<https://www.facebook.com/pages/Filature-de-soie-de-Tomioka/567450826657631>

地域住民との交流

活躍の場は富岡製糸場内だけではなくありません。赴任してすぐに渋川市国際交流協会から講演依頼があり、彼の出身地であるサルト県サブレ市を中心に日仏交流についてのプロモーションを行いました。

11月に群馬県庁ホールで行われた群馬日仏協会主催の「ぐんまフランス祭」でのブース出展、2月にはJR東日本が企画した世界遺産応援号のSL内で乗客と富岡製糸場について語るなど、観光PRにも一役買っています。

現在、“上州富岡フレンチ”のアドバイザーとして、地元商工会議所・商店街の事業者たちと、富岡市の新たな魅力を発信するためのスイーツの新メニューの開発に取り組んでいます。

学校現場でも活躍

ALT以外の外国人を地元で見る機会がほとんどない子供たちにとって「外国語＝英語」です。世界中にはさまざまな国や言語があることを知ってもらうため、過日市内小学校の総合学習の授業に2人で招かれた際、冒頭で「Bonjour!」とあいさつ。「Hello!」に慣れていた小学生は目をきょとんとしながら「ボ…ボンジュール……」と小さな声で返しました。

授業の最後に「富岡製糸場についていろいろ話したけれど、今日はポール・ブリュナとダミアンの名前だけ覚えてね。ダミアンを見かけたら、フランス語で元気よくあいさつしてね」と児童たちに伝えました。2週間後、富岡製糸場に社会科見学でこのクラスの児童たちが来場しましたが、ダミアンの姿を見るや否や「ボンジュール、ダミアン!」と口々に元気よい声が場内に響きました。児童たちは私との約束を守ってくれました!

CIR活用のすすめ

初めてのCIRの任用で不安でしたが、期待していた以上に日本語能力が完璧なこと、日本の歴史や文化に非常に詳しく勤勉・努力家であること、仕事に前向きで明るい性格であることから同僚からも慕われ職場にも活気があふれるなど、良いことばかり。もっと早く任用すればよかったと感じている日々です。

2月の未曾有の大雪で富岡製糸場の建造物に被害が出た際にも、連日の雪かき作業に不満ひとつ言うことなく、率先して作業する若い青年の姿は頼もしく感じました。



日仏親睦の絵手紙
ダミアン作成

今後、富岡市としても彼の力を最大限活用し、新しい目線でのアイデアを行政に生かし、活躍する場を広げられるようサポートしていきます。JETプログラムのCIRの良さをほかの自治体の方々にも知っていただくことも自分の役割だと感じています。

まだ契約は始まったばかりですが、いつか契約が終了する時が来ても富岡市を第二の故郷として、この先ずっと日仏間の架け橋となってくれることを確信しています。